

## 体長15m、迫力の恐竜標本

### 紅葉の丹波路へ

### バス旅行に33人参加

北区会秋のバス旅行は小春日和に恵まれた11月13日、33人が参加して丹波竜の里や地酒メーカー、道の駅などを訪ね、楽しい一日を過ごした。

朝8時前に谷上駅を出発、しあわせの村で半数をピックアップし、丹波路をひた走り。10時には丹波竜の待つ「化石工房ちーたんの館」に到着した。

圧巻は体長15mもの恐竜の骨格標本が室内いっぱいに広がる館内。「こんな大きな動物が1億年前には丹波一帯にいたんやなあ」とまずびっくり。ここで発見者の村上茂さん（丹波氏在住=写真）が登場。

13年前（2006年）に近くの川岸で化石の一部を発見して専門家に見せたところ「こりゃ本物。世紀の大発見です」と指摘され驚いたという話など、エピソードや発掘の裏話の熱弁に1時間も聞き入ってしまった。



発掘は、以後6次にわたって2012年まで続けられ、いくつかの新たな恐竜化石も加わり、現在の規模になった。この恐竜の学名は「タンノパティタニス・アミキティアユ」という舌を噛みそうなややこしい名前でも脚類に属し草食動物だという。恐竜の化石がほぼ1か所でまとまって出土したのは日本で初めてのことで、専門家も仰天。丹波竜の名を一躍広めたそうだ。

たっぷり化石の勉強したところで、柏原の料亭へ移動して昼食を摂る。午後は「小鼓」というお酒を出しているメーカーを見学。若い女性社員の案内で工場を一巡する。ここでは女性社員もいて、冬場ばかりでなく、年中お酒を造っているのだという。やや甘口の飲



館内いっぱいに展示され、人気上々の丹波竜の化石群

みやすい純米酒をちょっぴり試飲させてもらい、気分よく次の目的地へ。

道の駅・おばあちゃんの里は、ごく普通の道の駅。栗も黒枝豆もシーズン終了で、季節ものは柿くらい。皆さん特に買いたい物もなさそうで、帰路を急ぐ。途中、めんたいパークという明太子専門店に寄って一路神戸へ。道路も空いており予定より30分ほど早くしあわせの村へ帰り着いた。

【バス旅行参加者=敬称略】 武田恵津子、渡辺千恵子、山本幸子、安部文隆、樽井啓祐、坪中泰子、藤田靖子、芦田義和、木田育義、伊谷正弘、長谷川士土、持田稔、持田久美子、中西優、高橋毅、土井徹哉、木村成男、道崎俊徳、南形徹、佐伯義昭、片岡照夫、宮岡康、片岡隆夫、片岡克江、野見嘉弘、山口俊雄、徳山忠子、飯川泰取、有井由紀子、山田和子、鬼村 信示、前田仁子、宮崎洋子

（取材・南形徹、写真・木村成男）



丹波竜のちーたんの館